

さやか通り、東小学校を北に向けて歩くと、狭山藩陣屋跡がある。その少し手前に井出家の屋敷内にある狭山藩の藩校「簡修館」跡地の石碑を紹介します。

「小田原北條氏の流れをくむ狭山藩は、慶長5年(1600年)に初代北條氏盛が所領を安堵されたことに始まる。以後12代藩主氏恭氏まで狭山藩は続き、明治維新に至った。

幕末の狭山藩では教育熱が高まり11代藩主氏燕により、嘉永7年(1854)に「学問所」、後の藩校「簡修館」が開かれた。「簡修」とは学問によって心身を修めた優秀な人物を選ぶという意味であろう。簡修館の教育制度は学期10年で8～17歳の藩士子弟を対象とした。

学習内容は、儒学・歴史書の素読を基本とし、漢学(読み)、筆道(書き)・算数(ソロバン)が重視されたようである。授業料は無償で、多い時には60～70名の生徒が学んでいたようである。1869年末の廃藩とともに簡

修館は廃校となった。狭山で藩校簡修館を通じて教育が行われた期間は、わずか15年程であった。しかし近代日本の公教育が成立する前に、狭山の人々が熱心に学ぼうとする素地は固まっていたのである。

当時北條6騎の一つであった井出家が藩主と共に当地狭山に移り住み、そのご子孫の井出さんは金剛で長年眼科医院を開いておられる。偶然にもその奥さんに出会い、今回の新発見となった。



継続は力なり



久しぶりの

金剛登山



昨年は多忙にかまけて、一度も金剛登山が出来なかった。仲間と一緒に登る金剛登山は15年続いているが、1年7ヶ月の無沙汰であった。「もう少しで500回」が足踏みしている。途中でお会いした84歳の女性は残り10数回で700回に達するとか。年間で300回以上登るとは凄い。とてもお年には見えない。継続は力なり。